



使おう 県産材！

林業とくしま



写題：霊峰剣山の日の出 <写真提供 美馬市 新居綱男さん>

もくじ (林業とくしま283号)

◇新年のご挨拶..... 2	◇特集..... 8
・徳島県知事	・「未来を守るとくしま森林づくり」県民の集い」が開催される。
・徳島県林業改良普及協会会長	◇森林林業技術情報..... 10
・徳島県林業研究グループ連絡協議会会長	・獣害防護柵の再生と管理への取り組み
◇私の森づくり 井地阿武春さん(那賀郡那賀町)..... 4	◇県産材の需要拡大に向けて！..... 12
・「金の山づくり」を目指して	・県内、県外で県産木材をPR！
◇がんばる若手リーダー..... 5	◇県林業改良普及協会だより..... 13
・井口 雄水さん(海部郡海陽町)	・おすすめの一冊！本の紹介
◇現地だより..... 6	◇県林研だより..... 14
・東部圏域区(川島)	・「中国木材株式会社」視察研修報告
・西部圏域区(三好)	◇阿波だぬき..... 15
・南部圏域区(那賀)	◇広告..... 16

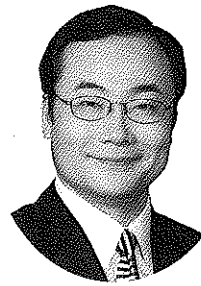


No. 283

2008・1

新年のご挨拶

徳島県知事 飯泉嘉門



明けましておめでとうございませう。

皆様には、希望に満ちた新年をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

昨年は、「安全・安心」についての信頼が大きく揺らぐ一年でした。

「亥年は地震に気をつけろー」の言い伝えどおり、「能登半島」、「新潟県中越沖」と大地震が相次ぐとともに、「食」に関しても「産地偽装」や

「消費・賞味期限の改ざん」事件が続発し、ブランドに対する信頼が大きく損なわれました。また、医療・福祉や経済、税財政に象徴される大都市と地方との「格差是正」が国を挙げての課題となりました。

こうした状況の下、本県では、平成十九年度から四年間の新たな県政運営指針となる「オンリーワン徳島行動計画（第二幕）」がスタートし、「徳島再生から飛躍」に向けて着実に歩みを進めるべく、様々な施策を積極的に展開してまいりました。

まず、「第二十二回国民文化祭」とくしま2007『おどる国文祭』では、オープニング式典で皇太子同妃両殿下のご臨席を仰ぐとともに、四大モチーフである阿波人形浄瑠璃の「傾城阿波の鳴門」のご鑑賞や藍染を直接ご体験いただいたのはじめ、県内外から延べ七十六万人もの方々にご参加をいただき、「あわ文化が二十一世紀・文化の世紀の先駆けとなる」可能性を全国に大いにアピールすることができました。

また、ドイツ・ニーダーザクセン州（人口約八〇〇万人）の間で、独自の県州間としては3例目となる友好提携に調印し、日独両政府からも両国の関係強化に直結するとの高い評価をいただきました。さらには、トヨタ自動車株式会社本社において、本県企業の優れた新技術や新商品を存分にアピールする「ものづくり新技術・展示商談会」や本県初の試みとして、徳島ゆかりの方々のご教智を結集した「とくしま経済飛躍サミット」の開催などを通じ、本県経済の飛躍への第一歩を踏み出せたのではないかと考えております。

さらに、森林林業の分野では、間伐材の有効利用の一層の促進などにより、本県林業の再生から飛躍を目指す「林業飛躍プロジェクト」を推進するとともに、「環境首都とくしま」の「未来を守る」とくしま森林づくり」を重点施策に掲げ、健全で豊かな森林を未来へと継承していくための「県民参加の森づくり」に積極的に取り組んでいくことといたしております。皆様におかれましても、様々な恩恵をもたらしてくれる本県の森林を、県民全体で支えていくことの重要性をご理解いただき、県産木材の利用促進や健全で豊かな森林整備に積極的にご参画ください。ようようお願い申し上げます。

さて、今年の干支は「戊子（つちのえ・ね）」。「戊」は「茂る、盛ん」の意を表すと同時に、物事の繁栄につれて、簡素化に努めるよう促しております。一方、「子」は十二支の始めに返ることから、「陽気の到来と増殖」を意味し、したがって、戊子の年には「無駄を省き雑事を整理して事に当たれば、一層の繁栄を迎える」とされております。

特に本県では、「神戸・淡路・鳴門ルート」の全通十周年を迎えることから、四月二十七日（日）には、その記念として、四国最大規模のフルマラソン「とくしまマラソン」を

開催し、県内外から三千名の方々にご参加いただく予定です。

また、全国大会としては十一月七日（金）から三日間、我が国最大の情報通信技術の祭典「地域ICT未来フェスタ2008 in とくしま」を開催し、インターネットを駆使した最先端の情報通信技術を体感いただくとともに、「徳島ならではのICT活用モデルを全国に発信してまいりたいと考えております。

時代は今、「真の地方分権時代」の真つ只中にあり、地域が自らの創意工夫を存分に発揮できる「地方重視の社会経済システム」への転換が求められております。

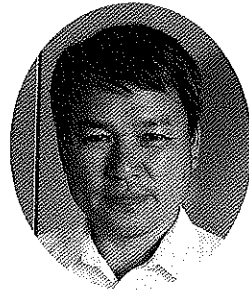
本県では、その旗手となるべく、「徳島発の提言を日本の標準・ジャパンスタンダードに」との気概を持ち、積極的な政策提言を行うとともに、県民の皆様と手を携え「誇りと豊かさを実感できる二十一世紀の徳島づくり」に邁進してまいりますので、更なるご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本年が皆様にとりまして幸多き年となりますことを、心からご祈念申し上げます。新年のご挨拶いたします。

年頭のぐあいさつ

社団法人徳島県林業改良普及協会

会長 亀井 廣吉



新年明けましておめでとうございます。会員の皆様には希望に満ちた新春をお迎えのことと謹んでお慶びを申し上げます。

皆様には、本協会活動の発展に多大のご支援ご協力を頂いておりまことに對し、厚くお礼申し上げます。さて、地球温暖化防止に係る京都市定書の約束期間が、いよいよ今年スタートすることになります。七月には北海道洞爺湖町で主要国首脳会議（サミット）が開催されます。

環境問題への関心が高まる中、温暖化ガスの排出量を減らすため我が国の各産業分野においては、新しい技術で省エネと二酸化炭素の削減に向けた様々な取り組みがなされております。一方、企業の社有林の経営においては、各社が森林の機能を最も高めるため、それぞれ工夫を凝らしてあります。

昨年九月に、日本林業経営者協会の中四国ブロック協議会が徳島県で

開催され、その際、MDF（中質繊維板）の製造工場を見学する機会がありました。

徳島県産のスギ間伐材チップが原料であり、県産材の需要拡大に大いに貢献しております。また、県産材を使ったMDF市場への一層の浸透を図るため、徳島県木材認証制度の登録をはじめ、各機関の認証を取得されております。

この会社は県産スギ材チップをMDFの原料として消費するだけでなく、多額の資金を提供して、所有者に代わって森林の整備に取り組んでいることを知りました。このような形での森林整備に参加されるということは、県内では新しい動きであるとともに、徳島県で第一号の「企業の森」として輝かしい事例であると思えます。

祖先から受け継いだ山は、自らが責任を持って管理経営するのが基本であります。しかしながら、いろいろな事情があり、そうはゆかないのが実態であります。

このような時代こそ、所有者自らが自信を持って山の経営を自覚しなければなりません。

どうぞ今年も、私たちの手で森林林業の活性化に向け、再生から飛躍へとジャンプしようではありませんか。

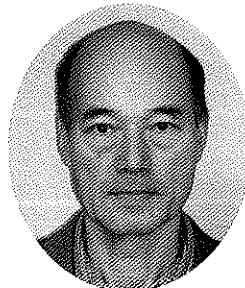
終わりにになりましたが、会員各位

の益々のご発展とご健勝をお祈り申し上げます。

年頭のぐあいさつ

徳島県林業研究グループ連絡協議会

会長 橋本 光治



明けましておめでとうございます。会員の皆様には佳き新年をお迎えになりましたこと、お慶び申し上げます。

昨年も良くなると期待していた木材価格も大きな変動も無く厳しさのみ長期恒常化しております。しかしながら、物の変化はその兆候が現れてから、何年か先に見えてくるものです。

自然界においても一番寒いのは冬至ではなく、二月であるように……

昨年の秋に、トヨタ自動車副社長の滝本正民氏（本県那賀町出身）の基調講演の中に、「日本には優秀な人材がある。そして、豊かな森林資源が膨大にある。近年、地球温暖化防止に向け期待が寄せられているバイオマス燃料もこの人材と資源を積極的に活かして行けば実用的な物が

きつと作れる。」と話されており、県下でも色々な分野において身近に眠っている優秀な人材が埋もれていると思えます。この人材を掘り起こしていけば木質バイオマスの実用化に向けた課題解決が図れると思えます。木質バイオマスにおいては、時代の流れからいっても林業の再生や活性化に繋がるチャンスの到来かも知れません。

もう一つ、近頃、二宮尊徳翁に関する記事を目にする機会が多くなりました。「林業とくしま；阿波だぬきコーナー」でも、徳永氏が取り上げておられました。何故か？荒廃した村を復興するのに「分度（自分の暮らしを分（身の程）に応じて決める。）」「勤儉（目いっぱい働き節約する。）」「推譲（節約して得た益を他人に差し出す。）」「報徳（これを受けた他人は感謝の念をもって報徳行為に出る。）」という四つの方法を提唱しました。米沢藩を立て直した上杉鷹山の仕法にも似ています。私は、一般的には、見落とされがちですが、「報徳の心」が一番大切であると思えます。

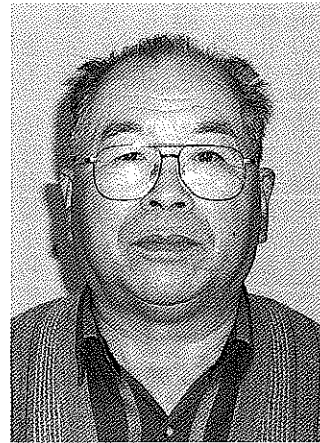
このように、人材・資源・時代の流れ・心（精神）。やる気があれば林業の夜明けも近いと確信しております。今年一年皆様にとつて造化の年でありまことをお祈りいたしております。

「私の森づくり」

〜「金の山づくり」を目指して〜

那賀郡那賀町

井地岡武春さん



「本人の紹介」

那賀町の旧木沢村で林業を営む、井地岡武春さんは、所有森林を100ha程度、そのほか、近隣の森林1000ha程度を管理しており、最近では一人で、新植・下刈り・枝打ち・伐採を行っておられます。現在七十五歳と御高齢ですが、その年齢を少しも感じさせない活動力でいろいろな分野で活躍されています。

井地岡さんは、長年木頭森林組合の理事として地元の林業振興に貢献するほか、「森の案内人」やNPO法人「阿波遊木民」の副会長として、徳島県の森林ボランティア活動（主に間伐や下刈りなど）に参加する一方、環境保護の観点からは「オオヤ



若い頃には木馬道で搬出（昭和51年当時）

マレンゲ」や「キレンゲシヨウマ」などの希少植物の保護（防護柵の設置）や青少年の育成にも、熱心に取り組まれております。

「林業に対する熱意」

井地岡さんは、十六歳から林業を始め、若いときには木馬道を引張って木材を搬出し、イカダに組んで流送するなど、旧来の林業から現在に至るまで林業一筋で頑張っておられます。

日本の国土は、木と人間の共存関係で成り立っており、お互いがなく

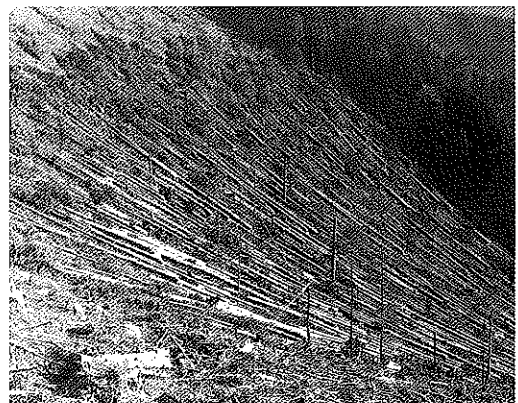
てはならない関係（一心同体）であり、そのため、森林は必要不可欠です。

「この森林を守り育てる林業を続けていくためには、昔のじいさんやひいじいさんの気持ちを込めて林業をやっていくことが大切である！」との信念で林業に取り組んでいるとのこと。

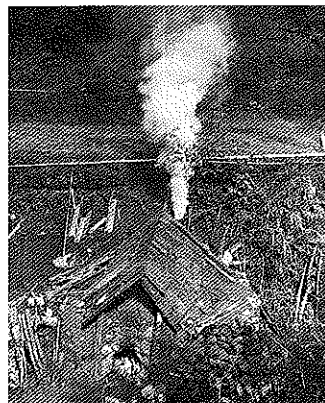
「林業への取組み」

井地岡さんの経営方針としては、山には当然経費がかかる。同じ経費がかかるのであれば、「金の山（良質材の山）」を造る必要があります（銅の山ではダメ）。そのためには、ヒノキを植栽して、枝打ちをきちんとし、一本のヒノキから無節材3mを三本取れるような施業をするのだそうです。

枝打ちは八〜九mまでする必要があり、特に、高い場所でのヒノキの枝打ちでは、ヒキコミを入れるのが難しく、まっすぐ枝が切れにくいなどの課題があります。そこで、井地岡さんは、自分が使用する道具（ノコ、ナタ、など）は、自ら炭釜を築き生産した炭、特に松炭を使い（燃



林業盛んな当時の伐採地（昭和62年）



自ら築いた炭焼小屋

焼時には一、三〇〇度ほどの高温）自ら手打ち（鍛冶）で作っておられることで、一人でも簡単に高い枝を落とすことができるよう工夫したそうです。

今後も、引き続きこのような経営を貫き、「金の山」を造るとともに、「若者ができる林業」、そして「今後の社会情勢にも合致した林業」を目指して頑張っておられます。

海部森林組合

井口雄水さん

南部圏区域(美波)

清流として知られる海部川の上流に林業機械の軽やかな音が響きます。今回おじゃましたのは、海陽町相川のスギ林。高性能林業機械(新間伐システム)を活用して海部森林組合が行っている搬出間伐の現場です。

班長の岡田さん、佐川さんの両ベテランと班を組んでいるのが、今回紹介する井口さんです。

井口さんは、地元出身の三十九歳。もともと機械操作が好きで、森林組合に高性能林業機械が導入されるとの話をつきかけに、平成十六年、それまでの建設会社勤めから転身しました。



(海部森林組合「森のエキスパート」、中央が井口さん)

平成十七年秋に新間伐システムが導入されて以降は、三人一組となつて搬出間伐に取り組んでいます。井

口さんは主にスイングヤーダを扱っています。が、二年あまりの経験を積んだ現在では、県下でも屈指の作業効率を誇っています。

その裏には、お互いの結びつきを大切にしていることが窺えます。雨などで現場に行けない日は森林組合の会議室に集まり、現場の段取りや反省点を話し合っています。おじやました日も、夕方には班の忘年会があるとのことでした。

井口さんも、「一緒に仕事をする3人の意志疎通が最も重要。」と話してくれました。こういった当たり前のことが作業の効率を高め、事故の防止にも寄与していると感じました。

森林組合職員の皆さんや岡田班長さんも、「これからの現場の中心になつてもらいたい。」と期待を寄せている井口さん。



若手リーダーが頑張る「新間伐システムの現場」

ご自身も「班長を見習いつつ、現場全体の段取りができるようになりたい。」と静かに抱負を語ってくれました。

「森のエキスパート」として、これからの一層の活躍を期待しています。

林業普及現場からの情報コーナー

【東部圏区域（川島）】 林業労働安全研修会 リスクアセスメントを学ぶ

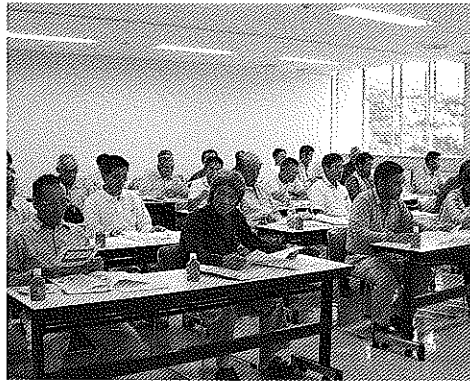
平成十九年十月五日、吉野川市において、森林組合作業員などを対象に、林業労働安全研修会が、開催されました。

日頃、下刈や除伐、間伐など林業作業に従事されている方々に、より安全な作業を行っていたため、最近、注目されているリスクアセスメントについて研修が行われました。リスクアセスメントのねらいは、作業現場で、労働災害が発生しそうな危険なところを前もって全般的に洗い出し、事前にどのくらい危険いかを体系的に評価し、その評価の大きさに従ってきちんと対策を実施することとされています。

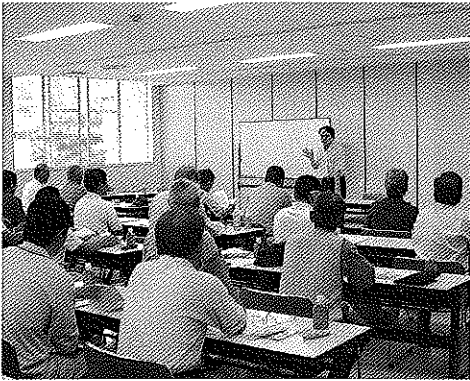
リスクアセスメントでは、まず、危険要因の洗い出しを行います。

各自がこれまでに経験した「ヒヤリ」としたことや「ハット」としたことを出しあい、過去の災害事例なども参考に危険要因を洗い出します。

次に、これらの危険要因が、どのくらい危険なのか、「災害発生の可



林業労働安全研修



リスクアセスメントを学ぶ

能性」と「発生した場合の重大性」についてリスクの見積りを行い、ランク付けを行います。

そして、そのリスクの評価を行いリスクのレベルを決めます。

最後に、このリスク評価に基づき、リスク低減対策を個々に検討し、具体的対策を考え、記録します。

そして、対策に優先順位をつけて、全員が実施に移します。

今回の研修では、労働基準監督署の方や林業労働安全推進員からお話を聴き、各自の体験から危険要因を洗い出すことを中心に行いました。

どの事業所であっても働く人の安全の確保が、すべてに優先されなければなりません。それが、引いては生産の向上にも繋がるということです。

事故には、必ず原因があるのであり、その原因を究明し、対策を行うことが大切であり、決して、「運が悪かった。」で済ましてはならないとのことでした。

【西部圏区域（三好）】 「三好高校高性能林業機械 運転体験会」を開催

三好指導区では、「吉野川（三好）流域林業活性化センター」と一体となり、林業担い手確保対策の一貫と

して三好高校生を対象に、プロセッサやフォワーダなどの高性能林業機械を使用した林業機械運転体験会を十一月二十一日に実施しました。

参加者は、三好高校二年生九名、担当教諭二名のほか、講師として、

三好西部森林組合若手作業班員四名（平均年齢二十五歳内三名は三好高校卒業生）、活性化センター職員、林業普及指導員が参加しました。

体験会は、三好市山城町の搬出間伐団地（面積五五ha、作業路七、七〇〇m）で行われ、最初に、林業普及指導員から「林業飛躍プロジェクト」や「新間伐システム」の概要について説明を受けた後、二班に分かれ若手作業班員の指導により一名ずつスイングヤーダ、プロセッサ、フォワーダの操作体験を行いました。生徒達は、林業機械に興味を示すとともに、指導してくれる作業班員が世代も近く同校の先輩であったことから、熱心に耳を傾け真剣に取り組んでいました。

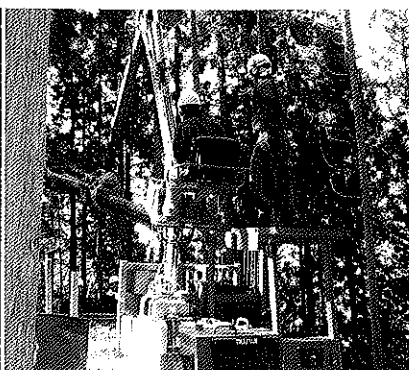
質問の時間においては、「給料はどのくらいか」「どうすれば作業班員になれるのか」等森林組合への就職の意向を示す発言もあり非常に有意義な体験となりました。

三好指導区では、今後も林業担い手確保対策を重要課題と捉えこうした活動を積極的に展開することにし

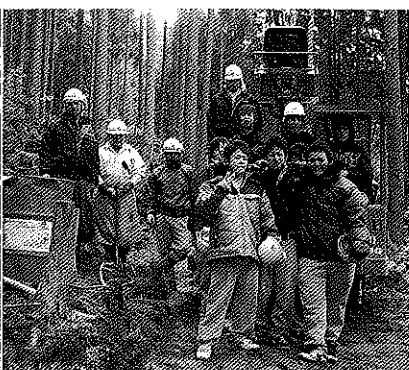
ています。



スイングヤードを体験



フォワーダを体験



担い手と期待される三好高校生

【南部圏域区（那賀）】

森づくりボランティア

「千樹の森」について

平成十九年十一月十七日、「千樹の森」において森づくりボランティア事業が実施されました。「千樹の森」は、那賀町（旧木沢村当山）にあり、人間と動植物が自然にふれあえる多様な機能を持つ森林として、また、青少年及び一般住民のボランティア活動の場を提供するため、平成十二年度岡田敏男会長をはじめ各実行委員

九名を中心に「千樹の森実行委員会」を立ち上げ、九・六haの伐採跡地を購入し、森林の造成を目指しました。



森づくりボランティア活動「千樹の森」

これまでの活動内容としては、「緑の募金事業」や「地球温暖化防止の森づくりボランティア活動支援事業」などを利用して、広葉樹の植栽・下刈り・獣害防止ネットの設

置などを実施しており、漁協関係者製紙会社、学生など広範囲にわたる一般ボランティアの参加により、平成十二年度から十七年度までの六年間で充実した森林整備を行うことができました。

昨年度は、実行委員会のメンバーの高齢化等により、ボランティア事業を一時休止しましたが、山腹の崩壊や獣害防止ネットの破損が多く見受けられるようになったため、地元から山の復興に対する期待が高まってきました。そのため実行委員会と協議した結果、平成十九年度は獣害防止ネットの設置と下刈りを実施することとなりました。参加人数は、十二名とやや少な目でしたが、少数精鋭で初めてのネット張りに挑戦しました。

獣害防止ネットの設置については、森林が造成できるまで持たせると言うことで、DMグリーンネット2,4型という本格的な林業用ネットを採用しました。同モデルは、獣害防止ネットの高さ一・八mのうち、下から一・二mの部分より強力にするため、ダイニーマという特殊な繊維を使用しており、シカ等の噛み切りを防ぐには効果的な商品ということですが、総資材費は三〇〇m分で約三十三万円でした。

設置方法は、尾根から獣害防止



獣害防止ネットを設置

ネット（延長一〇〇m程度）を敷き降ろし、四m間隔に設置した支柱にロープワークを駆使してとりつけました。裾垂らし部分を〇・六mほど取り、一m間隔でペグ（アンカー）を打ち、下からの獣害等の侵入を防ぐための方策も講じました。ネットの張り具合の調整や斜面の凹凸にあわせるのが大変で、また、上下作業の危険性も体験できました。参加者の中には、自分で山を購入して広葉樹を植えているという人もいて、予定時間を延長して、真剣に取り組んでいました。

今後も、防護柵のメンテナンスと下刈りを積極的に展開し、目指すべき森づくりに取り組んでいく予定です。

『未来を守るとくしま森林づくり』 県民の集い』が開催される。

林業振興課 普及調整・森づくり担当

一 はじめに

県土の七五%を占める森林は、木材等の林産物の供給はもとより、県土の保全や水資源のかん養など私たちの生活に欠かすことの出来ない共通の財産です。特に近年は、温室効果ガスの吸収源として森林に大きな役割が求められており、森林に対する期待は益々高まりを見せています。しかし、近年、森林・林業を取り巻く環境の悪化などから、間伐などの森林の手入れが不足し、森林が持つ機能の低下が危惧されています。そこで、今回開催した「県民の集い」では、健全な森林を育成し次世代に継承していくため、森づくりやより一層の木材利用を県民の皆様とともに進めていくことを目的として「未来を守るとくしま森林づくり」をテーマに次のとおり開催されました。

二 行事の概要

(1) 開催日時

平成十九年十一月二十三日(金)

午前十時から

(2) 開催場所

名西郡神山町「県立神山森林公園」

(3) 主催

徳島県・(社)とくしま森とみどりの会

(4) 後援

徳島県森林組合連合会

(5) 参加者

林業、木材産業関係者、緑の少年隊、森づくりボランティア団体など約一五〇名

(6) 行事内容

【バルーンリリース】
 ○緑の少年隊やボランティア団体などが、開催テーマである「未来を守るとくしま森林づくり」に当たり、この美しい郷土の森林が長く受け継がれていくよう



バルーンリリースでオープニング

願いを込めて「ドングリ」を付けた風船五十個を大空に解き放ち、行事が始まりました。

【主催者あいさつ】

○開会に当たり、主催者である徳島県の木村正裕副知事から、「『環境首都とくしま』の実現に向け森づくりを県民全体で支えていきましょう。」と、また、北島勝也(社)とくしま森とみどりの会会長(県議会議長)から



主催者あいさつ

は、「緑の募金を通じ県民参加の森づくりを県下各地へより一層広げていきましょう。」との主催者あいさつがありました。

【歓迎のことば】

○地元の後藤正和、神山町長からは、県下各地から多数の林業・木材産業関係者の来町を歓迎する旨のごあいさつをいただきました。

【表彰行事】

◇県知事表彰
 ○県内各地で長年にわたって指導者として林業振興に貢献された方々を表彰する「林業功労者表彰(三名)」及び地域の模範と



表彰行事

なる森づくりを行っておられる皆さんを表彰する「徳島県森づくりコンクール入賞者表彰（二団体）」に表彰状と記念品が授与されました。

◇（社）とくしま森とみどりの会会長表彰等

○緑化意欲の高揚などを図るため、小・中・高等学校の児童・生徒のつくった「緑化運動ポスター・標語コンクール」の入賞者（二十四名）に表彰状と記念品が授与されました。なお、これらの作品は、（社）国土緑化推進機構が行う全国審査において優秀と認められた作品は、来年度のポス

ターに使われます。また、県の「緑の募金」の推進のポスターにも使われることとなっています。

○この他にも、森林・林業に関する様々な技術や知恵を伝承することを目的として、優れた技をもってその業を極め他の模範となっている方々を（社）国土緑化推進機構が認定する「森の名人・名人」として、卓越した技術で祖谷のかずら橋の架け替えに長く携わってこられた三好町の吉岡清さんに認定証と記念品が授与されました。

【緑の少年隊活動発表】



緑の少年隊活動発表

○今年八月に静岡県で開催された「緑の少年団全国大会」に、本県代表として参加した美馬市の重清北緑の少年隊が学校周辺の環境整備など地域と連携した活動を、また、藍住町の藍住北緑の少年隊からは、同じく八月に高知県で開催された「徳島県と高知県の緑の少年隊交流会」の様子が発表されました。会場からは、森づくりの次世代を担う子供達の活動に期待を込めた大きな拍手がありました。

【記念植樹】



記念植樹

○今回の県民の集いの開催を記念して木村副知事をはじめ主催者

来賓の方々と緑の少年隊によりヤマモモやユズリハなど五本の苗木の植樹が行われました。

【森林づくり宣言】



森林づくり宣言

○行事の最後には、阿波市の林緑の少年隊により「私たちは、徳島の山や川、海が大好きです。みんなで協力して未来を守るとくしまの森林を大切に育てていきます。」との力強い「森づくり宣言」で行事を無事終えることが出来ました。関係の皆様のご協力にこの紙面をお借りして感謝いたします。

獣害防護柵の再生と管理への取り組み

徳島県立農林水産総合技術支援センター 森林林業研究所
 森林環境担当 森 一生



一 はじめに

現在、野生動物から農林生産物を防護する最も現実的な対応方法は防護柵の設置です。しかし、設置後に侵入されるケースも多く、防除をあきらめてしまうケースがあり、その損失は非常に大きいものとなつていきます。侵入を防ぎきれない柵をどう機能回復させ、管理してゆけばいいのか、今回はその取組事例の概要を紹介します。

二 取組の経緯

上勝町八重地の徳島県立高丸山十年の森内に約十二haの自然林再生を目的とした広葉樹等の植栽地があります。当地域はニホンジカの生息密度が高く、植栽地においてもその対策として防護柵（ステンレス線編み込み（一〇cm目）タイプ）が平成十

四年に設置されています。しかし、その後防護柵のメンテナンスはされず、苗木の植栽はされるものの、防護柵はその機能を失いつつあったようです。平成十八年度に「かみかつ里山倶楽部」が指定管理者になり、

森づくりを考えたとき、植栽地へのシカの侵入、広葉樹等苗木の摂食被害が森づくりにおいて解決すべき最優先課題と判断されました。そこで「かみかつ里山倶楽部」から被害対策指導の依頼を受けたのをきっかけに、千年の森ふれあい館スタッフと共にその対策に取組むことにしました。

三 状況の把握

まず、何が原因で侵入を許しているのかを特定するための調査を実施しました。なるべく客観的に把握するため、支柱間を1ブロック（全五



写真1 管理用ラベル

二ブロック）として、①地際の侵入痕跡②ネット破損状況を調査し、地際からの隙間が二〇cm以上あるか破損があるブロックを補強箇所としました。また、平成十九年度からは効率的に管理作業を実行するためにそれぞれのブロックに一〜五二一までラベルを設置しています。（写真1）

四 補修方法

ニホンジカは追いつめられたりすると二m程度はジャンプしますが、一七〇cm程度の柵高を維持できなければ、越えられることは少ないので、



写真2 補強用ネット

ネット破損個所が多い七〇cm以下から、潜り込みが多い地際にかけて補強することになりました。方法は既設ネットの上から補強ネットをL字型にかぶせるというごく簡単なものです。斜めに張ったほうがシカが嫌がるという情報もありますが、ネットに絡んだり、人が歩きにくくなるデメリットも大きく、今回はネット地際から潜りにくくなることと七〇cmまでのネット補強機能を優先してL字型に補強ネットを設置しました。（写真2）

五 補修成果

平成十九年七月一日現在において、柵全周囲長一・二四九・六五m・五七・一ブロックに対して、補修箇所一〇三箇所 延長二・四・三五mで補修率一八％という結果でした。(現在は二二％(現在は二二％に増加)補修ブロックからの侵入はなかつたものの補修ブロック以外からの侵入はイノシシも含めて数度見られました。また、外部からの侵入はないもの一旦侵入した個体が補修ブロックから脱出した事例の報告がありました。柵内での植栽木への被害状況を把握するために被害モニタリングブロックを柵内上部2箇所、中部1箇所、下部2箇所に調査木各五〇本計二五〇本設置して補修以前、補修直後、現在と三回調査を実施しました。設

表1 被害モニタリング調査結果

	被害率(%)			樹高(cm)		備考
	対策前被害率	2006.12.26	2007.12.19	対策前	2007.12.19	
1	52	16	0	50.05	79.47	
2	70	4	0	51.92	78.68	
3	32	0	0	58.46	87.57	
4	0	0	0	84.96	101.50	

表2 防護柵管理表

	補修	角度	距離	X	X(積算)	X(hosei)	Y	Y(積算)	Y(hosei)	備考
1		16	2.1	1	1	0	2	2	2	創造の森終点がスタート
2	1	330	2.6	-1	-1	-1	2	4	4	
3		330	2.9	-1	-2	-2	3	7	7	
4		330	3.2	-2	-4	-4	3	10	10	
5		330	3	-2	-6	-6	3	12	12	
6	1	330	2.8	-1	-7	-7	2	15	15	
7		330	3	-2	-9	-9	3	17	17	
8		330	2.5	-1	-10	-10	2	19	19	
9	1	330	6	-3	-13	-13	5	25	25	
10		28	1.8	1	-13	-13	2	26	26	
11		28	2.7	1	-11	-11	2	29	29	
12		28	3.1	1	-10	-10	3	31	31	
13		28	2.3	1	-9	-9	2	33	33	
14		28	2.7	1	-8	-8	2	36	36	
15		28	3	1	-7	-7	3	39	39	
16		28	2.9	1	-5	-5	3	41	41	
17		28	3	1	-4	-4	3	44	44	
18	1	28	3	1	-3	-3	3	46	46	
19		28	3	1	-1	-2	3	49	49	
20		28	3	1	0	0	3	52	52	

置直後数度の侵入があった時期(十八年十二月)には被害が少し計上されていましたが、十九年十二月調査時には全ブロックにおいて被害は見られませんでした。(表1)

また、十九年度からは、見回り↓
理由ができるようにしています。
これらのデータ管理は、見回りの作業後、補修箇所を具体的に把握し、補修状況を図化することで素早く現場へフィードバックすることを目的としていきます。(表2、図1)

報告↓補修というローテーションを

六 おわりに

現在の柵内における被害状況から、L字型補修ネットでの補修は効果的ではありませんでした。しかし、これだけではなく、ふれあい館スタッフによる継続的な見回りは平成十八年八月から現在まで続いていて、毎月三回から四回の定期的な見回りをすると具体的な管理体制が築かれつつあります。このような体制ができることは非常に貴重な事例ではありますが、防護柵の機能を持続させるためにはこのような管理体制が必要であることを柵の設置当初から計画しておくことが重要だと思います。

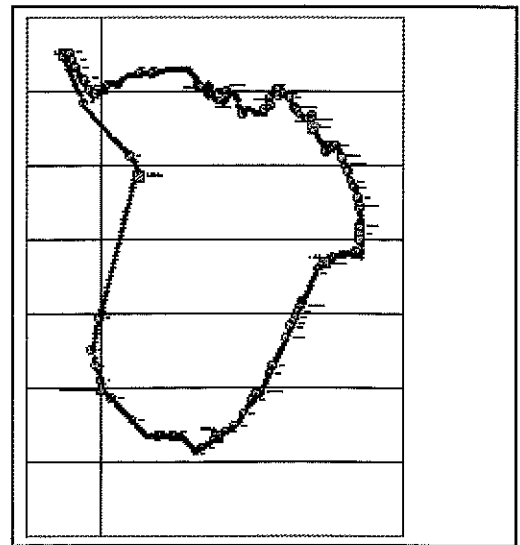


図1 防護柵管理図

県産材の需要拡大に向けて!

県内・県外で県産木材をPR

林業振興課木材生産流通担当

徳島県では木材利用を促進するため、公共事業における県産木材の優先使用や木造住宅資金の貸付制度などを行っているが、製材品出荷量における建材の比率は、全国で八二%（百十七木材需給報告書）を占めており、木材の需要拡大を図る上で、住宅分野での利用はもつとも重要な部分です。今回は、一般ユーザーへの県産材製品のPRや住宅における県産材利用に向けた取り組みについてご紹介いたします。

「山と木と緑のフェア2007」 第20回徳島WOODわくわく祭」

徳島県では、毎年十月を森林・木材利用推進月間として、移動森林教室や各市町村・企業を対象に木材利用の協力依頼を行うキャラバン隊などのイベントを行っています。その中でも「山と木と緑のフェア」は、月



間の中心となるイベントで、今年第二十回目を迎え藍場浜公園で、十月十三日、十四日に開催されました。会場では、県下各地から集められた木製品の展示販売や徳島すぎのテーブルなどが当たる大抽選会、ウッドイオークションなどが開催され、連日多くの人でにぎわいました。また、県内の幼稚園を対象にしたバス型木製遊具の抽選会では、子供達にぜひ持って帰りたいという先生方の熱い思いが抽選会場を盛り上げました。

毎年大人気の木工工作コーナーでは、親子連れが本棚や椅子などオリ

ジナルの作品づくりに汗を流していました。これからもこのように県民の皆様が直接木と触れあえる機会を提供することで、県産木材の良さをお伝えしていきたいと考えています。



「第2回県産木造住宅展」

平成十九年十二月一日、二日の二日間、徳島市内の沖洲マリナーミナルのマリナーホールにおいて、「徳島県家づくり協会」による第2回県産木造住宅展が開催されました。（来場者数二六七人）。家づくり協会は、県産木材を使った木造住宅を建てる六システムが所属しており、発足からの住宅の着工数は一〇〇〇

戸（百十八末）を超えています。今年も、県産木造住宅をお考えのお客様にそれぞれのブースにおいて、加工板のサンプルをつかって木の役割や木の良さを説明したり、各システムの特徴を紹介するなどのPRを行いました。

また入り口に展示されたパネルには、家づくりに思いがふくらむ施工例が数多く紹介されており、足を止めて熱心に見入るお客様も多くなりました。

そのほか、認証木材コーナーでは、県産認証木材をつかうと金利が優遇される「森を木づかう住宅資金貸付制度」のPRも行いました。また、



一日には森林林業研究所で、徳島す
ぎの強度を測る実大試験も同時開催
し、そちらの方にも多くのご来場を
いただきました。

「第29回ジャパンホームショー・ 第2回ふるさと建材・家具見本市」

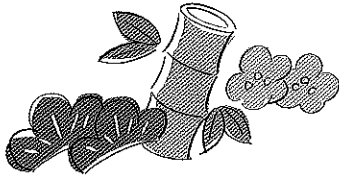
平成十九年十月十四日～十六日の
三日間、東京ビックサイトで「徳島
県木材協同組合連合会」が「那賀川
すぎ共販協同組合」と「(株)アル
ボレックス」とが共同して、「徳島す
ぎ」で作製したブースを設置し、徳
島すぎ製品の販路拡大に向けたPR
を行いました。

この三日間で九一、九八二名の来
場者があり、全国各地から訪れた設
計士や工務店の方々に対して、「徳
島すぎの良さ」をPRしました。

設計士の方から、「最近はお施主
さんから外材より国産材で仕上げ
てほしいとの要望が徐々にではあるが
増えてきている」との話の聞いたり、
単価表の提示を求められたりと、今
後の徳島すぎ製品の取引関係の構築
が期待されることです。

この展示会には、他県からも自県
産材の販路開拓に向けて多く出展し
ており、他産地・類似商品に打ち勝
つためには、今後も大消費地での県

産材のPR活動を定期的に行うとと
もに、さらに磨きをかけて品質・性
能に優れた製品を製造することが必
要です。



徳島県林業改良普及協会より

おすすめの一冊です！本の紹介

「山で働く人の本々見る・読む林業
の本々」全国林業改良普及協会編

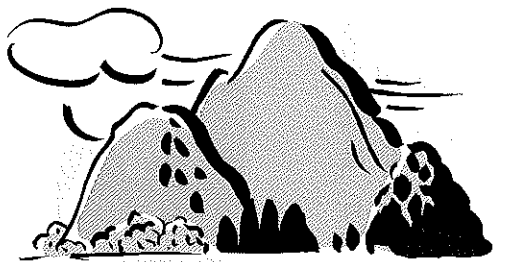
「山で働く」ことの雰囲気を感じて
いただけます。

森林を守り育てる「林業」は、日
本を支える仕事です。でも、職業と
しての林業の姿は、なかなか外から
は見えにくいものです。

これから山で働きたい人に向けた、
これまでになかったリアリティ溢れ
る一冊です。

本書は「山で働きたい」「山村に
イターンしたい」という人に向けて、
林業の概要と特徴、職場の仕組み、
山村暮らしの実際、イターン先駆者
の足跡などをまとめ、職業の全体像
がつかめる内容となっております。

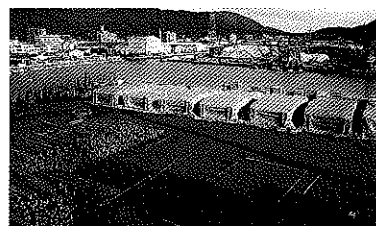
「現場の空気をまるごと伝えます。」
長年にわたって現場に携わってい
る、いろいろな方々の声が掲載され
ています。さらに、イターンして林
業に就いた十二人に密着取材。ルポ
ルタージュ形式で、普段の仕事の様
子、それぞれの職業感、これまでの
苦悩や喜びを克明に記載してありま
す。



「中国木材株式会社」視察研修報告

1. はじめに

去る平成十九年十二月四日(火)五日(水)にかけて当協議会では、会員の資質向上や今後の活動に活かすため、日本最大級の製材工場である「中国木材株式会社(広島市呉市)」を訪問(参加者二十名)し、同社の主力商品である集成材等の「製材加工」や「木質バイオマス」並びに「プレカット加工」等の現状について視察研修を実施しましたのでその概要をご報告いたします。



燻蒸処理(害虫駆除)

七万㎡、年間約二〇〇万㎡で、日本の在来軸組木造住宅の約三軒に一軒は、同社の製品で、また梁桁に限れば国内の約八〇%を供給していることとなります。なお、日本最大の工場だけあって、本社工場の施設整備費は約二〇億円、会社全体の売上額は約六五〇億円になります。

③ほとんどが乾燥材製品

製品は、ベイマツが主体の集成材などで、六〇〜七〇%までが乾燥材製品とのことです。訪問した郷原工場だけでも四二六基の乾燥機(一基約五〇㎡処理)がフル稼働していました。会社全体では、五八六基が稼働しているとのことです。



フル稼働する乾燥機

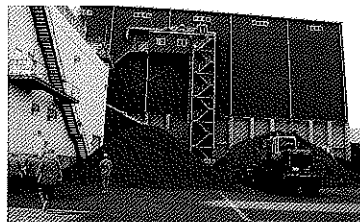
乾燥は、絶対条件で今後も鹿島工場を中心に約三〇〇基が整備されているとのことでした。

④プレカット製品

同社の製品は、主にプレカット用として全国販売されていますが、自社でプレカット加工も行っており、訪問した郷原工場では、耐震化に対応した仕口を金属のボルト留めを行う「金物工法製品」などの新商品などを含め月産一七、〇〇〇坪を生産しております。

⑤木質バイオマスの活用

二〇〇四年四月から、自社工場から製材工程で発生するオガ粉やバークを原料として発電を行っており、必要電力(約六千Kw)の約七〇%までを木質バイオマスで賄っております。

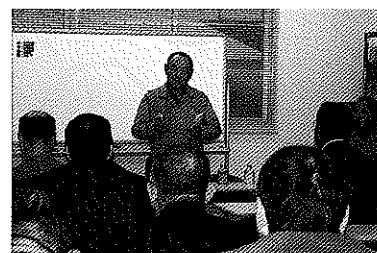


木質バイオマス発電施設

⑥国産材利用の取り組み

視察の最後には、堀川社長自らが応対してください。今は、ベイマツ主体だが、今後は、日本林業や森林環境を保全するために、全国的に成熟してきた国産材を積極的に使っていくことが我が社の使命でもあり、ハイブリットビーム(ベイマツとス

ギとでの集成材)の生産にも力を入れていく。とのことのお話がありました。参加者もお話には勇気づけられたようでした。



堀川社長より説明を受ける

3. おわりに

今回の視察研修では、日本最大の企業の現状を間近に見ることが出来、零細規模の林家が多い本県でも一致団結すれば需要の高まっている集成材等への原木供給の可能性を見いだせた有意義な研修となりました。

〈事務局よりのお知らせ〉

「県林業研究グループ連絡協議会総会」及び「林業研究グループコンクール」の開催

(1)日時：平成二十年一月十七日

(木)午前十一時から午後

三時三十分

(2)場所：県森林林業研究所4F

研究発表室(徳島市南

庄町5丁目69)

※会員の皆様のご参加を
お願いいたします。

「日々の通勤」

西部総合県民局農林水産部 (三好)
技術課長補佐 伊賀上

朗



池田へ赴任したのは二回目だ。毎日高速道路で通勤しているが、家を出て片道一時間、七十kmの道のりである。通勤方法は、車かバイク。

「通うのはたいへんだらう」とよく聞かれるが、本人は結構そうでもない。朝起きるのは確かにつらいが、車に乗ってしまえば往復2時間の通勤時間は貴重なリラックスタイム。それにバイクで行く場合、風を切って走る高速道路は、これがまた結構ストレス解消になっている。

通勤途上では、四季折々の季節の変化に大いに気づかせられる。阿讃山脈では、5月の黄緑色の新緑の美しさ。夏になるとその葉が濃い緑となって朝日、夕日にキラキラ輝き、そのうち気がつけば季節は秋から冬になり、いつのまにやら枯れ葉色。これから葉も落ちて、枯れ枝に雪が舞う、などという景色も見ることになるのだらう。

また、吉野川の方角を見下ろすと、天候によっては遠くの山まではつきりつきり見通せる日もあり、霧が巻いてまったく見えない日もある。

先日は、川霧が発生していて、吉野川の上空にだけ川に沿って雲がかかっているのを見た。日々、貴重な体験をさせてもらっている。

まあそれはそれとして、近頃車で行くかバイクで行くか、悩むことが多くなった。昨年度までは職場が近かったこともあり、雨の日も風の日も、暑かろうが寒かろうが、一心にバイク通勤したが、さすがに池田までの1時間の道のりを毎日バイクで行き来するのは疲れるので、朝、雨が降ってなければその日の気分ですぐで行くかバイクで行くかを選んでいく。

ガソリン高騰の折、なるべくバイクで通いたいのだが、冬の寒さも増してきており、はたしていつまでバイクで通えるものなのか。一断念したら、次に暖かくなるまで乗らないに決まっている。意地でも続けたいのだが、地球温暖化が進んでいるとはいえず、まさか池田の冬がそんなに優しいとは思えない。最低気温のチェックが続くが、バイクを封印する日は近い。

森の揭示版

「平成十九年度森林林業研究発表会・林業講演会」の開催

○日 時 平成二十年一月十六日(水)

午前九時四十五分から

○場 所 県森林林業研究所4F
研究発表室

一、森林林業研究発表会「午前九時四十五分から」

(発表テーマ)

- ・二ホンジカが自然林の植生に及ぼす影響について
- ・菌床シイタケ害虫ナガマドキノコバエの防除技術の開発について
- ・強度間伐実施地における残存木の生長と下層植生の回復について
- ・準不燃木材の開発について
- ・スギ合板の住宅用下地材としての性能について
- ・移动式ペレタイザーによる木質バイオマスの燃料化について
- 二、林業講演会「午後一時三〇分から」

・演題 林業新時代を開く

〜自信を持って林業を行うために〜

・講師 東京都指導林家

田中惣次氏

◇皆様からのご意見ご感想をお待ちしております。

(林業振興課 普及調整・森づくり担当)

電 話 〇八八(六二二)二四五八

FAX 〇八八(六二二)二八六一